

DO YOU KYOTO?クレジット創出・活用促進協議会

**DO YOU KYOTO?クレジットの創出・活用促進事業
中間報告書**

2013年3月1日

株式会社 JTB コーポレートセールス

目 次

1. 事業の概要	1
1.1 事業の名称.....	1
1.2 協議会の概要.....	1
1.3 事業概要	1
1.4 実施体制	3
1.5 実施工程.....	4
2. 事業報告	5
2.1 協議会開催状況	5
2.2 制度文書.....	6
2.3 排出量・クレジット等管理システム	6
2.4 広報ツール.....	7
2.5 事業報告	9
2.5.1 クレジットの創出促進に向けた条件整備	9
2.5.2 クレジット活用促進に向けた取組実施	16
2.5.3 DO YOU KYOTO?クレジット制度のPR、普及啓発.....	25
2.6 マスコミからの取材の有無.....	30
2.7 他都市からの行政調査の受け入れについて.....	33
3. 事業の総括	35
4. 今後の展望	38
参考資料	39

1. 事業の概要

1.1 事業の名称

DO YOU KYOTO?クレジットの創出・活用促進事業

1.2 協議会の概要

表 1-1 協議会の概要

(1)協議会の名称	DO YOU KYOTO?クレジット創出・活用促進協議会
(2)地方公共団体	京都市(幹事、事務局)、京都府(会員)
(3)その他構成機関	(会員) 大阪ガス株式会社、関西電力株式会社、特定非営利活動法人気候ネットワーク、株式会社京都銀行、公益社団法人京都工業会、公益社団法人京都市観光協会、京都商工会議所、京都信用金庫、京都中央信用金庫、株式会社京都パープルサンガ、特定非営利活動法人 KES 環境機構、佐川急便株式会社、株式会社 JTB 西日本、凸版印刷株式会社 (事務局) 株式会社 JTB コーポレートセールス、株式会社リサイクルワン
(4)設立年月日	平成 24 年 9 月 7 日

1.3 事業概要

本事業の背景、目的、事業内容を以下に示す。

● 背景

- ・ 2010 年 10 月に京都市地球温暖化対策条例を全部改正し、2020 年度までに CO₂ 排出量 25%削減、2030 年度までに 40%削減という目標を掲げた。
- ・ 上記の目標を達成するために、対策が進んでいる大企業の補完的措置として、中小事業者・家庭の取組促進のためのインセンティブとして 2011 年 8 月に「DO YOU KYOTO?クレジット制度」を創設した。
- ・ DO YOU KYOTO?クレジット制度の概要を以下に示す。削減実施者である中小事業者やコミュニティは、クレジット創出にかかる資金として、京都市から奨励金を得ることができる。一方、京都市は、スポーツ試合実施者や大規模事業者からクレジット売却代金を得ることができる。このように、この制度は資金が循環する制度となっている。

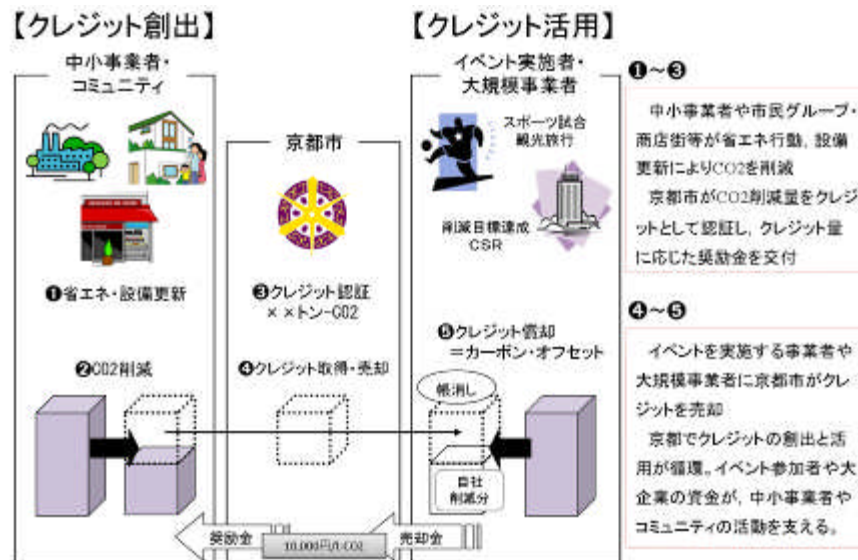


図 1-1 DO YOU KYOTO?クレジット制度の概要

- 2011年8月から制度の運用を開始し、昨年度は約160トンのクレジットを認証した。
- クレジットの創出については、削減プロジェクト登録団体数も順調に増えているが、クレジットの活用が伸びないことから、プロスポーツ、観光旅行、商品・サービスでの活用やクレジット制度の認知度とブランド価値の向上等によりクレジット活用の地産地消モデルを実践、発信する必要がある。

● 目的と事業内容

本事業では協議会の運営と制度のPRを基礎とし、京都市内におけるクレジットの創出活動(CO₂排出削減活動)の推進とクレジットの利用取組の普及啓発を行うこととした。事業内容の4つの柱を以下に示す。詳細は2章で後述する。

1. 協議会の運営
2. クレジットの創出促進に向けた条件整備
3. クレジットの活用促進に向けた取組実施
4. DO YOU KYOTO?クレジット制度のPR、普及啓発

1.4 実施体制

本事業は株式会社 JTB コーポレートセールス（以下 JTB）が主体となり、京都市および協議会参加者と連携して事業を推進した。

本事業の実施体制を以下に示す。

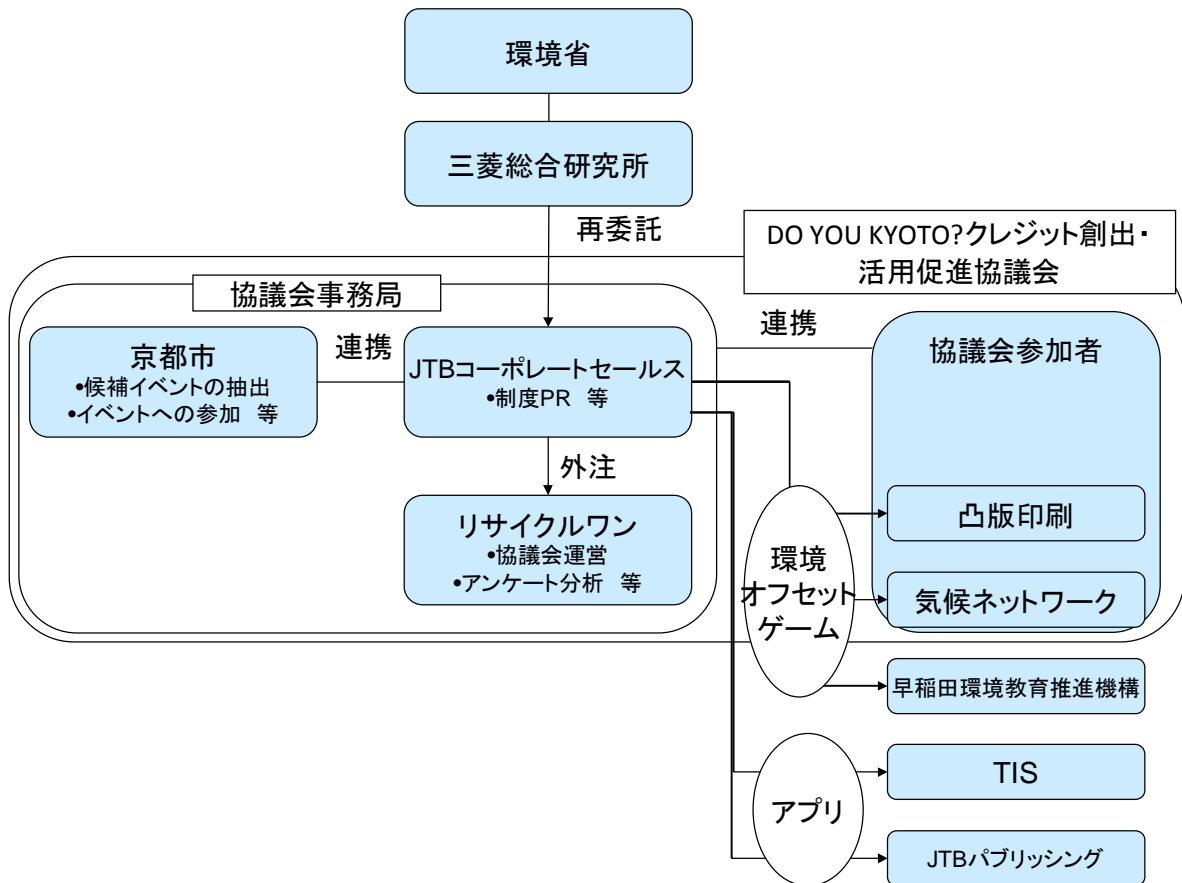


図 1-2 事業実施体制

1.5 実施工程

事業の実施工程を以下に示す。協議会の総会を3回実施しICT研究におけるヒアリング対象の拡大、手引書の確認に多数の関係者の意見を盛り込むなど、当初予定より時間をかけて踏み込んだ調査および検討を実施した。

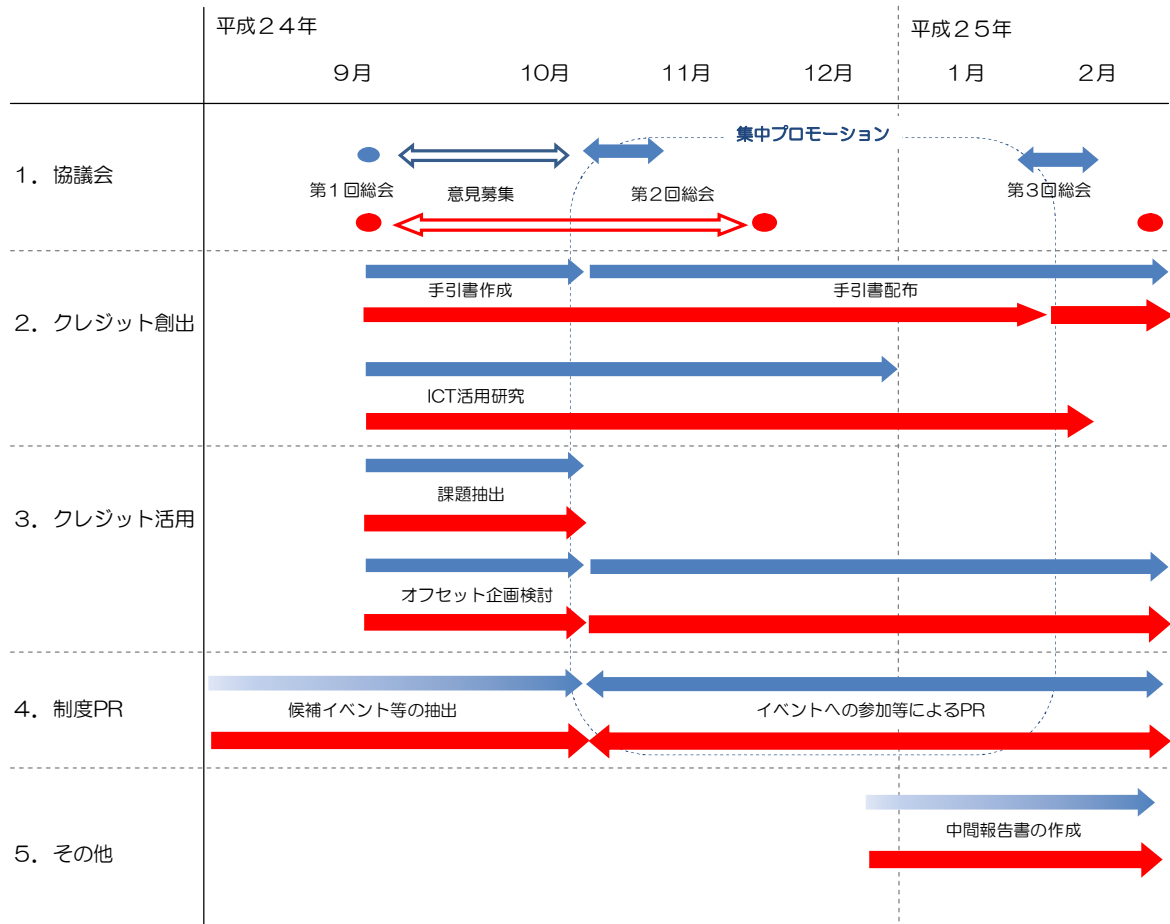


図 1-3 事業の実施工程（青が予定、赤が実績）

2. 事業報告

2.1 協議会開催状況

総会を3回開催した。

表 2-1 協議会・研究会開催状況

回	年月日	参加者数	主要議題
第1回	平成24年 8月20日	29名	■決議事項 1. 規約 2. 役員選任 3. 平成24年度事業及び事業予算 4. DO YOU KYOTO?クレジット創出促進事業の活動方針 5. DO YOU KYOTO?クレジット活用創出事業の活動方針 6. 平成24年度事業スケジュール ■報告事項 1. カーボン・オフセット企画の事例 2. 環境・エネルギー分野 凸版印刷の取り組みご紹介 3. 佐川急便 物流における環境対策 4. 観光シーンでのカーボンクレジット活用事例 5. DO YOU KYOTO?クレジットの活用が検討可能な市関連団体等のイベント
第2回	平成24年 11月27日	21名	■決議事項 1. DO YOU KYOTO?クレジットの創出促進事業 ①検討中のクレジット創出促進事業 2. DO YOU KYOTO?クレジットの活用促進事業 ①実施済みのクレジット活用事業 ②検討中のクレジット活用事業 3. DO YOU KYOTO?クレジットの普及・啓発事業 ①検討中の普及・啓発事業
第3回 (電磁的開催)	平成25年 2月26～28日	全会員	■議決事項 1. 中間報告書(案) ■報告事項 1. ICT 活用研究の結果について 2. 第2回総会後に実施した DO YOU KYOTO?クレジット活用事業について 3. 第2回総会後に実施した普及・啓発事業について

また、下記のとおり、各種研究会を開催した。

- クレジット創出手引書作成に関する研究会:4関係機関と各2回
- ICT 研究に関する研究会:2回
- アプリに関する研究会:3回
- 環境オフセットゲームに関する研究会:2回
- 金融機関とのオフセット企画に関する検討会:各行1回

2.2 制度文書

事業を運営するために作成した文書を以下に示す。

表 2-2 制度文書一覧

文書名	内容
DO YOU KYOTO?クレジット創出・活用促進協議会 設立趣意書	協議会の設立目的を記した文書
DO YOU KYOTO?クレジット創出・活用促進協議会規約	協議会の名称、目的、事業内容などを定めた文書 事務局長の専決事項および旅費に関する規定も含まれる

2.3 排出量・クレジット等管理システム

本事業においてはコスト対効果の観点から新たな排出量・クレジット等管理システムの構築は行わず、京都市が平成 24 年度に構築したエクセルベースの既存の管理簿を用いた。DO YOU KYOTO?クレジット管理手法を以下に示す。

表 2-3 排出量クレジット等管理システム

名称	管理する対象	利用ソフト	公表方法	特徴
クレジット管理簿	1. 発行済クレジット 2. 利用済クレジット	表計算ソフト	京都市 HP	発行済みのクレジットだけでなく、どのクレジットが何に利用されたか一覧で確認できる

京都府情報館
文字 大きくする 小さくする 元に戻す

京都市トップページ | 市の組織 | 環境政策局 | 各課の窓口 | 地球温暖化対策室

★ 地球温暖化対策室

地球温暖化対策室のホーム

広報資料

水産埋立処分場大規模太陽光(メガソーラー)発電所事業

所管設備等

「DO YOU KYOTO?」プロジェクト

環境モデル都市・京都

環境にやさしいライフスタイルへの転換プロジェクト

「アホのウルトラマラソン」

DO YOU KYOTO?クレジット制度

- ▶ 排出削減プロジェクト登録一覧(中小事業者プロジェクト) [2013年1月15日]
- ▶ 申請手続 [2012年12月20日]
- ▶ 排出削減プロジェクト登録一覧(コミュニティプロジェクト) [2012年10月31日]
- ▶ **クレジット管理簿** [2012年7月31日]
- ▶ クレジット活用事例 [2012年7月23日]
- ▶ DO YOU KYOTO?クレジット制度について [2012年5月11日]
- ▶ 低炭素化支援パートナー事業者の登録申請について [2012年5月2日]
- ▶ 低炭素化支援パートナー事業者 [2012年5月2日]

(第19号様式)クレジット管理簿

プロジェクト番号	排出削減施設名称	排出削減プロジェクト名	排出削減施設(削減)の削減率	プロジェクト期間	開始日	終了日	削減率	削減量(t-CO2)	購入者数	削減率	削減量(t-CO2)	クレジット譲渡日	クレジット譲渡額	譲渡目的	譲渡事業者
2012-01-001	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-002	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-003	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-004	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-005	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-006	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-007	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-008	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-009	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎
2012-01-010	京都府庁舎	京都府庁舎	10%	2012年1月1日～2012年12月31日	2012年1月1日	2012年12月31日	10%	100	1	10%	100	2012年12月31日	1000000000	削減	京都府庁舎

図 2-1 京都市 HP で公開されているクレジット管理簿

2.4 広報ツール

告知広報においては、目的によって活用する媒体が異なるため、媒体の特性に合わせた広報を行った。

表 2-4 広報ツール一覧

目的	分類	媒体	対象	作成部数	内容・配布方法
創出者獲得	創出手引書	リーフレット	商店街等コミュニティ	A4:8P: 4,000部	DO YOU KYOTO?クレジット制度、参加メリット等を周知する手引書 訪問時に手渡し
		リーフレット	中小企業	A4:8P: 4,000部	DO YOU KYOTO?クレジット制度、参加メリット等を周知する手引書 訪問時に手渡し
市民の認知向上	京都サンガ	チラシ	イベント参加者	59,000部	京都サンガ F.C.ホームゲームのカーボン・オフセットの内容の周知 観戦パンフレットに挟み込み
	おいけフェスタ	パンフレット(コンテンツ提供)	市民	40,000部	おいけフェスタパンフレットへのDO YOU KYOTO?クレジット制度の周知及びカーボン・オフセット実施告知コンテンツの掲載 京都市中京区内の新聞折込(京都、朝日、毎日、読売新聞)23、250部 区役所等関連施設での配布 イベント来場者への配布
		チラシ(コンテンツ提供)	市民	5,000部	おいけフェスタ内で実施の「かえっこバザール」チラシへのDO YOU KYOTO?クレジット制度の周知及びカーボン・オフセット実施告知コンテンツの掲載
		ポスター	市民	2枚	DO YOU KYOTO?クレジットの説明を掲載
		ホームページ	市民	-	おいけフェスタホームページへDO YOU KYOTO?クレジットの説明を掲載
	京都産業まつり	プレスリリース	報道関係者	-	おいけフェスタと京都産業まつりの共同プレスリリース
		チラシ(コンテンツ提供)	市民	70,000部	イベント周知チラシにDO YOU KYOTO?クレジット制度の周知及びカーボン・オフセット実施告知コンテンツの掲載 新聞折込で配布

目的	分類	媒体	対象	作成部数	内容・配布方法
	下京区ふれ愛ひろば	チラシ(コンテンツ提供)	市民	3,000部	来場者全員に配布されるプログラムに DO YOU KYOTO?クレジット制度の周知コンテンツの掲載
	カーボン・マーケット EXPO 2013	パネル	来場者	5枚	DO YOU KYOTO?クレジットの説明を掲載(4枚) 環境オフセットゲームの説明を掲載(1枚)
オフセット参加者の獲得	スマートフォンプリ「京都まちあるき観光Navi」(花なびセレクト・舞妓なび含む)	パンフレット	観光客	A4:4P: 20,000部	(京都市) ・京都市営地下鉄主要駅 ・観光案内所 ・京あるき(イベント)で配布など (JTB コーポレートセールス) ・支店(京都旅行をお申込みの方へ配布) ・京都市内のホテルなど
		ポスター	観光客	B3:950部	・京都市バス車内へ掲出 ・京福・叡山電鉄車内額面広告掲出 ・京福電鉄四条大宮駅、叡山電鉄出町柳駅、京阪電鉄祇園四条駅、三条駅、ポスター一駅貼
		ポスター	観光客	変形 B3:280部	京都市営地下鉄車内横枠広告掲出
		プレスリリース	報道関係者	-	スマートフォン向けアプリケーションを活用したカーボン・オフセットについてリリース
		WEB ページ	アプリ購入者	-	アプリの説明に加えて、DO YOU KYOTO?クレジット制度の説明をアプリ解説画面に表示
		クレジット活用促進チラシ	チラシ	クレジット活用候補者	3,000部
オフセット実施企画の周知	京都マラソン	ポスター(コンテンツ提供)	市民、観光客	B1:300部 B2:2,800部 B3:15,820部	大会ポスターを京都市内全域で掲示
		参加案内(コンテンツ提供)	イベント参加者	17,000部	マラソン参加者全員に配布
環境価値循環の見える化	カーボン・オフセット通信	チラシ	クレジット創出者等	電子媒体 又はコピー 対応	市内で実現したクレジット活用事例の説明
環境教育	環境オフセットゲーム	ボードゲーム	小学生等	500セット	カーボン・オフセットが学べるボードゲーム

2.5 事業報告

2.5.1 クレジットの創出促進に向けた条件整備

(1) 手引書の作成

クレジットの創出者を増やしていくことは制度普及の重要なポイントである。しかしながら、これまでの制度紹介資料は地球温暖化問題や環境価値などの比較的市民や中小事業者といった創出候補者の関心ごとではない項目説明から始まり、DO YOU KYOTO?クレジット制度を知った創出候補者が具体的にどの程度のコスト削減や奨励金の取得が可能か、簡単にイメージできるような資料ではなかった。

このため、本モデル事業において、協議会会員との協議を重ね、創出者となりえるコミュニティ（家庭、店舗）向けと中小企業向けのクレジット創出のための手引書を計 8,000 部作成し、地縁団体、商店街等のコミュニティと中小企業を対象に個別に配布する。

コミュニティ向けの手引書においてはエネルギーコストの削減や奨励金による金銭的メリットだけでなく地域の絆の深化などにも触れて訴求することとした。

一方で中小企業向けの手引書においては特に金銭的メリットに興味が集まることが予想されたことから、エネルギーコストの削減と奨励金の額を具体的に示し訴求することとした。

表 2-5 手引書の利用方法

(1)コミュニティ向け	エコ学区事業※に取り組む協議会や商店街への説明に利用
(2)中小企業向け	省エネセミナーなど環境に関心がある企業向け説明会等で配布



図 2-2 コミュニティ向け創出手引書（抜粋）

※ エコ学区事業：京都市が行う低炭素のモデル地区「エコ学区」事業の略。家庭・地域からの二酸化炭素排出量（CO₂）の一層の削減を図るため、先進的な取組を実践するモデルとなる学区を各区役所・支所に 1 学区ずつ選定し、平成 23 年度から 2 年間にわたり、省エネの推進、環境学習や地域実験に積極的に取り組んでいる。

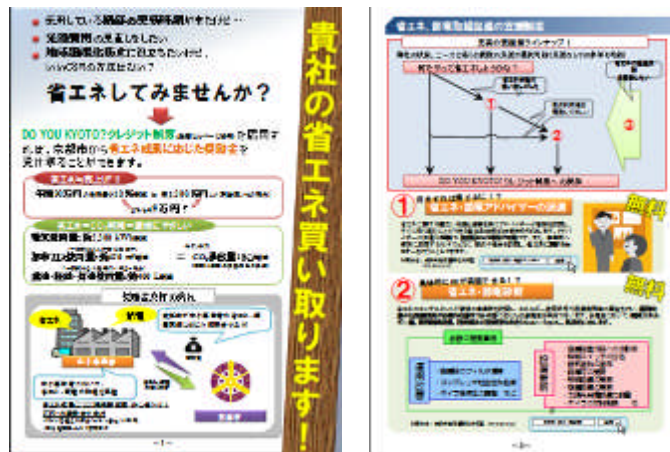


図 2-3 中小企業向け創出手引書（抜粋）

(2) ICT 活用研究

コミュニティにおけるクレジットの創出に当たっては、現在は創出者が検針票を紙ベースでとりまとめ、制度管理者である京都市に提出し、京都市が検針票のデータと創出者の削減実績申告を照合する作業が発生している。この創出者の取りまとめの手間と照合の手間を削減することは創出候補者の参加の障壁を下げるとともに運営コストの圧縮につながると考えられる。

また、これらの手間を解消するためにコミュニティでのクレジット創出は概ね 10 世帯以上の参加を条件としているが、参加者を集める手間があることも創出候補者の参加の障壁になっていると考えられる。

これらのことから、本年度は ICT を活用してこの課題を解決する手法がないか、電気・ガスといったエネルギー供給事業者と京都市インターネット版環境家計簿運用委託事業者（いずれも協議会会員）とともに調査を行った。具体的には、エネルギー事業者が運営するエネルギー使用量等の照会サービス（Web）と、京都市のインターネット版環境家計簿のシステム連携によって、クレジット創出者のエネルギー使用量等の情報が、京都市へ自動的に提供されるシステムの実現可能性調査を実施した。

調査・検討方法は、東京都内で区の環境家計簿と電力会社の環境家計簿データを連携し入力の手間を省いている中野区と、このシステムを運用している事業者にヒアリングを行い、この結果をもって DO YOU KYOTO? クレジット制度で同様の手法が実施できるか、協議会会員と検討を行った。

その結果、個人情報の提供に加えてシステムのセキュリティが課題になる可能性が洗い出されるとともに、既存のシステムを生かした中間段階としての仕組みも考案できた。各エネルギー供給事業者が求めるセキュリティの仕様については今後明らかにしていくことが求められる。

また、上記の ICT 活用が実現した場合、京都市における奨励金支払い事務の事務量の増加が想定される。このため、奨励金の支払いについても ICT を活用できないか検討した。具体的には、環境省事業であるエコアクションポイント制度と DO YOU KYOTO? クレジット制度の連携について、エコポイント制度事務局にヒアリングを行い、可能性を調査した。

その結果、具体的な手法については今後、京都市とエコポイント事務局で協議が必要であるものの、大枠では両制度の連携が可能であることが明らかになった。

表 2-6 ICT 活用研究における既存の制度関係者へのヒアリング結果概要

(1)ヒアリング先	中野区、株式会社ビットメディア
(2)既存事例の概要	中野区の「なかのエコポイント制度」においては、区民の CO2 削減に対してポイントを付与している。 この CO2 削減を定量化する際に、東京電力のでんき家計簿の電力消費量データを自動反映する機能を有しており、制度参加者の入力の手間および確認の手間が削減されている。
(3)本機能を持たせるために解決すべきと考えられる障壁	エネルギー供給事業者から参加者の個人情報の共有をうけることが可能か
(4)ヒアリング結果	なかのエコポイントおよび東京電力のでんき家計簿の両者の利用規約において個人情報の共有に同意いただければ解決可能

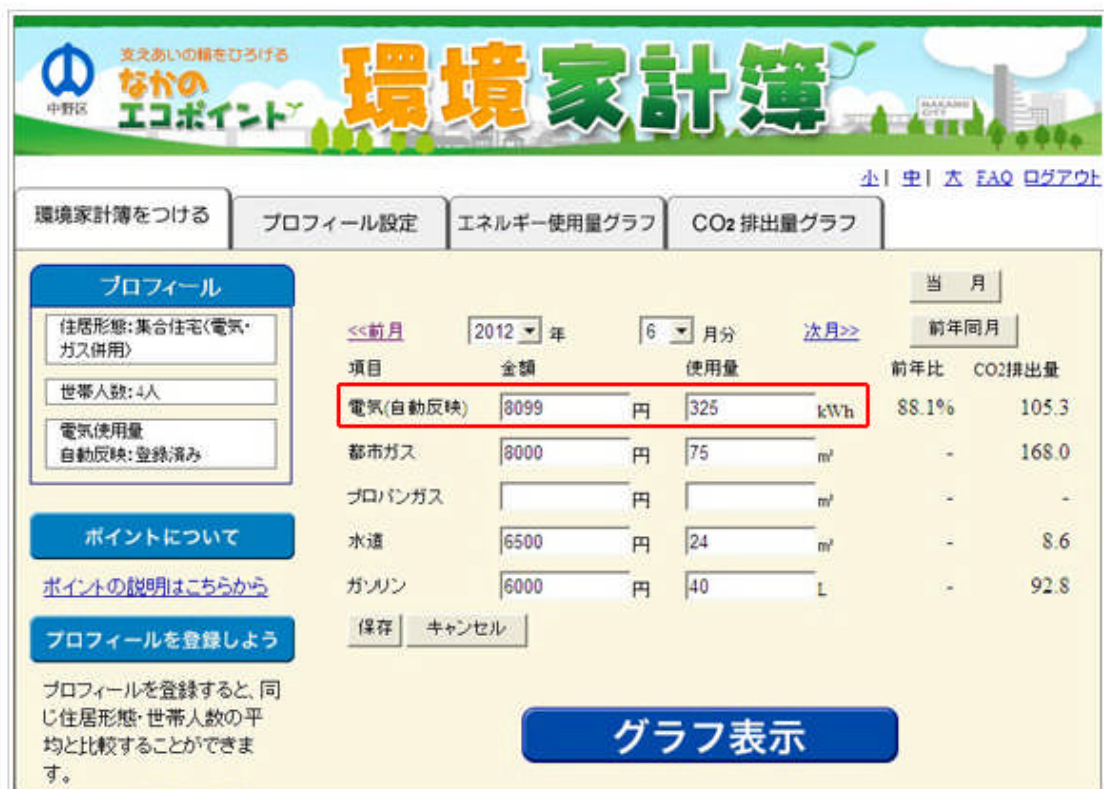


図 2-4 なかのエコポイント制度の環境家計簿で電力消費量が自動反映されている状態 (出所：なかのエコポイント HP)

表 2-7 ICT 活用研究における協議会会員との検討結果①

	手法	効果		
		創出者の取りま とめの手間	市の照合の 手間	参加に必要な 世帯数
ICT 最大 活用案	エネルギー事業者の 環境家計簿の電気・ガ ス使用データを市の環 境家計簿へ自動連携	省力化○	省力化○	1世帯から○
ICT 中間 活用案	エネルギー事業者の 環境家計簿のPC画面 コピーデータ又は電 気・ガスの検針票の写 真データのEメール送 信	省力化○	省力化×	1世帯から○
ICT 未活用 (現状)	電気・ガスの検針票の 写し(紙)提出	省力化×	省力化×	概ね 10 世帯 以上

表 2-8 ICT 活用研究における協議会会員との検討結果②

(1)障壁となる部分	個人情報の提供	システムのセキュリティ
(2)対応方法案	エネルギー供給事業者の環境家計簿および DO YOU KYOTO?クレジット制度側で構築するシステムの利用規約において、個人情報の提供に同意いただく。	DO YOU KYOTO?クレジット制度側で構築するシステムにおいて、エネルギー供給事業者が求めるセキュリティを施す。
(3)対応可否	表 2-9 参照	表 2-9 参照

表 2-9 ICT 活用研究における協議会会員との検討結果③
(エネルギー事業者の上記障壁解消に係る意見等)

A 社	<p style="text-align: center;">(お客様の個人情報の取扱いについて)</p> <p>当社が所有するお客様データ(使用量等)の利用先は、当社のプライバシーポリシーで定められており、業務委託を行っている当社グループに限られております。お客様の同意がない限り、この利用先以外へのデータ転送はできません。</p> <p>一方、お客さまの要望によるお客さまご自身のデータの提示は実施しております。インターネットでの提示は無償で行っており、また書面での提出が必要な場合は原則有償で行っております。</p> <p>このため、お客様の同意を得たうえで、そのデータを京都市システムで活用することは論理的には可能です。</p> <p>しかし、これを自動的に行うためには、同意を得たお客さまのデータをピックアップして京都市システムに送り出すためのシステムを当社のシステムに組み込む必要があります。</p> <p>この場合、初期に多額のシステム開発費用が発生し、その後もシステムの運用費用が発生します。</p> <p>お客さまが環境家計簿を付けられる際には、毎月届けられる「料金のお知らせ」のエネルギー使用量を記載していただくことが合理的であると考えられます。</p> <p>報告の信憑性の確認についても、「料金のお知らせ」には、毎月の使用量だけではなく、メーター指示数が記載されているため、1年に1度の照合(コピーまたは写真の提示)で確認が可能です。</p> <p>毎月お客さまが省エネルギーを意識して環境家計簿を付けるという面からも、お客さまご自身が「料金のお知らせ」をご確認いただき記述されることが良いと考えます。</p>
B 社	<p style="text-align: center;">(個人情報の提供及びシステムセキュリティについて)</p> <p>当社のWEBツールとのWEB連携につきましては、情報セキュリティの観点や、その対策も含めた連携等を考慮しますと、一定の費用が必要となるため、現実的には対応が困難です。</p> <p>また、WEB連携以外の方法で、データ等のやりとりをする場合につきましても、個人情報の取扱い(同意確認)には、先方や当社の作業が必要になります。</p>

表 2-10 エコアクションポイント制度と DO YOU KYOTO? クレジット制度の連携に係るヒアリング結果概要

(1)ヒアリング先	株式会社ジェーシービー
(2)ヒアリング概要	<p>クレジット制度との連携の場合、方法は2通りあると考えられる。</p> <p>① CO₂削減量 ○トン以上～△トン未満 → 1,500 pt ◎トン以上～◇トン未満 → 2,000 pt</p> <p>というように、削減量区分に応じた一定ポイント分のカードを交付する方法</p> <p>② CO₂削減量に応じて、0.1トン単位でポイント数を変えて付与する方法</p> <p>この場合は、EAPカードが使えないので、参加者へEメールなどにより付与ポイント数を連絡する必要がある。</p>
(4)ヒアリング結果	ポイント付与等、今後詳細な協議が必要だが、両制度の連携は可能(連携のイメージは下図のとおり)

DO YOU KYOTO? クレジット創出促進 ICTの活用イメージ

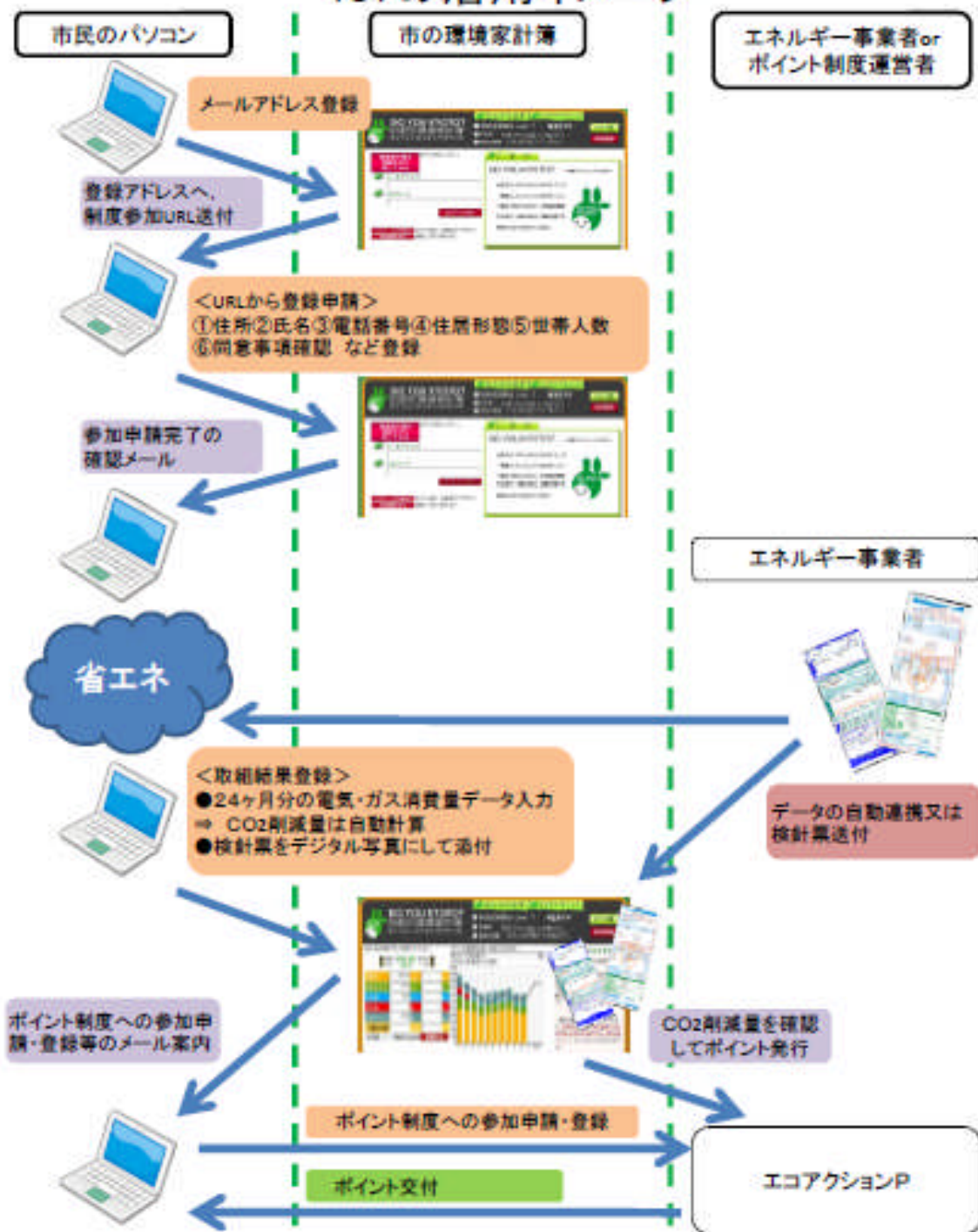


図 2-5 エコアクションポイントとの連携イメージ

(3) その他の取組（環境価値の見える化）

DO YOU KYOTO?クレジット制度は、2011年8月に制度を創設し、2011年度末に160トンのクレジット創出を果たした。また、2012年5月には京都サンガ F.C.のカーボン・オフセットマッチの実施により、クレジットの活用を実施した。

ここにおいて、京都市内における環境価値循環の姿が実現した。この循環の姿をわかりやすく周知するため、クレジットの創出者が、自ら創出したDO YOU KYOTO?クレジットが市内においてどのように活用されているかを「見える化」するため、実現したカーボン・オフセットをわかりやすくまとめた「カーボン・オフセット通信」を作成した。

作成した「カーボン・オフセット通信」は、クレジットの創出者のみならず、活用者や本協議会メンバーなどの関係者にも配布した。



図 2-6 カーボン・オフセット通信

2.5.2 クレジット活用促進に向けた取組実施

(1) 活用事業者にメリットを持たせる手法の検討

クレジットを活用しカーボン・オフセットを実施する事業者にメリットを持たせることは制度普及の上で重要なポイントである。他地域のカーボン・オフセット制度を調査した結果、オフセット実施者にロゴマークの提供や記念盾の提供などを行っている事例が判明したことから、本事業ではカーボン・オフセット実施者に提供するロゴマークを作成した。

ロゴマークの作成に当たっては、以下の観点を重視した。

- ・ 京都市であることを伝える：「DO YOU KYOTO？」のキャラクターである「エコちゃん」の活用、コピーライトに「京都市」を記載
- ・ カーボン・オフセットであることをわかるようにする：「CO₂」をデザイン化
- ・ DO YOU KYOTO?クレジットを利用していることをわかるようにする：ロゴマーク下部に記載
- ・ 他の環境配慮のマーク等となじむ：緑を基調としたロゴ
- ・ 環境にやさしい取組が深化していく様子を表す：Cの矢印部分を緑が段階的に濃くなることで表現
- ・ 制度コンセプトの図示：環境価値（CO₂クレジット）が循環している様子を円形の矢印で表現



図 2-7 DO YOU KYOTO?クレジットを活用した
カーボン・オフセット等の取組を示すロゴマーク

作成したロゴマークについては、カーボン・オフセットを実施したイベント等の案内パンフレット等に、DO YOU KYOTO?クレジット制度の概要と実施したカーボン・オフセットの概要と共に掲載するとともに、看板等での周知にも活用し、カーボン・オフセットを実施するイベント実施者等の取組周知活動支援を行った。



※右写真の左看板のロゴマークは、後日、前頁のロゴに差替えた。

図 2-8 カーボン・オフセット周知看板



図 2-9 京都マラソンの案内ポスターへのロゴマーク掲載

また、これまで、DO YOU KYOTO?クレジットによりカーボン・オフセットすることのメリットを訴求するような活用促進のためのパンフレットが存在しなかった。このため、メリットをはじめ制度の概要からカーボン・オフセットに類型までわかりやすくまとめた DO YOU KYOTO?クレジット活用促進チラシを策定した。



図 2-10 DO YOU KYOTO?クレジット活用促進チラシ

(2) 活用候補事業者への提案活動

カーボン・オフセット企画の実現のために特に京都らしさにこだわった商品、交通系サービス、イベントの分類を対象に協議会事務局が中心となり重点的に提案活動を実施した。現在 9 つの企画が発表されており、約 38 トンのカーボン・オフセットが実施されている。

表 2-11 カーボン・オフセット企画一覧

分類	内容	オフセット類型	オフセット量 (t-CO ₂)
商品	オフセット付き観光アプリ「京もまちあるき観光 Navi」	自己活動 オフセット支援	1.0※
	舞妓さんの成長を見守るアプリ「舞妓ナビ」へのオフセットの付加	自己活動 オフセット支援	0.1※
	今の京都の花情報配信アプリ「花ナビ」へのオフセットの付加	自己活動 オフセット支援	0.1※
	DO YOU KYOTO?クレジット 環境オフセットゲーム	商品使用・サービス利用オフセット	0.1

分類	内容	オフセット類型	オフセット量 (t-CO ₂)
交通	近畿日本ツーリストのオフセット付京都旅行	自己活動 オフセット支援	0.2※
	京都市交通局オフセット付乗車券(検討中)	自己活動 オフセット支援	検討中未定
イベント	京都サンガ F.C. カーボン・オフセットマッチ	会議・イベント 開催オフセット	31.1
	大阪ガス(株)・京都リサーチパーク(株)KRP-WEEK	会議・イベント 開催オフセット	4.0
	OIKE Festa 実行委員会 おいけフェスタ	会議・イベント 開催オフセット	1.0
	京都商工会議所(「京都・知恵産業ウィーク」実行委員会) 京都産業まつり	会議・イベント 開催オフセット	2.0
	下京区ふれあい事業実行委員会 下京区ふれ愛ひろば	会議・イベント 開催オフセット	0.2
	京都マラソン	会議・イベント 開催オフセット	10.7(見込)
その他	地元金融機関のカーボン・オフセット(検討中)	自己活動オフセット、会議・イベント開催オフセット	検討中未定

※ 2月28日時点の実績。事業は3月末まで実施する。

(3) 観光と連携したカーボン・オフセット

京都市では観光客に由来する GHG 排出が他の地域に比べて多い。

このため、前述の通り、本事業では京都らしさを示す観光に関係したアプリの開発を行い、このアプリを導入するとカーボン・オフセットができるという取組を実施した。これは、観光客が単純にカーボン・オフセットを実施することは比較的困難であることから、手軽にカーボン・オフセットを実施しつつ、京都観光の役に立つアプリで楽しんでもらおうという狙いがある。アプリの概要を以下に示す。

アプリのダウンロード数は提供期間が短く有料であるにもかかわらず 210 件の導入がなされた。これは告知広報を継続して実施したことによる効果と考えられる。導入数と広報の実施タイミングを以下に示す。少数ではあるがアプリに対する評価も寄せられており、評価は高い。しかしながら提供期間が短いことを指摘するコメントも見られることから、今後は利用者への付加価値向上のため、より提供期間を長くし、継続した告知広報を行うことが効果的と考えられる。

また、同様の効果をねらい、地域の団体であるフラワーツーリズム推進協議会が販売する「今の京都の花情報配信アプリ「花ナビ」」及び「舞妓さんの成長を見守るアプリ「舞妓ナビ」」などにもカーボン・オフセットを付加した。

表 2-12 オフセット付き観光アプリ「京都まちあるき観光 Navi」の概要

項目	内容
名称	京都まちあるき観光 Navi
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ AR(Augmented Reality; 拡張現実)を活用した情報提供 AR 画面の端末を目の前の景色にかざすと、目の前にある施設の名称や現在地からの距離が現実の風景に重ね合わせて表示される。 ○ 旅の軌跡をログとして表示 端末の移動軌跡の情報が収集され、どのようなルートをたどったかを地図上で表示したり、送信したりすることが可能。
対応デバイス・価格	Android: Google Play 99 円 iOS: App store 85 円
オフセットの内容	「京都まちあるき観光 Navi」購入者の排出する CO ₂ の一部(5 kg-CO ₂)を、DO YOU KYOTO? クレジットによりカーボン・オフセット
導入数	Android: 143 件 iOS: 67 件 ※2 月 28 日時点の実績。事業は 3 月末まで実施する。

特長 1 位置情報から
周辺の情報を自動表示

スマートフォンのカメラを目の前の施設にかざすと、見たままの景色にその施設のアイコンが重ね合わせて表示されます。これは AR (拡張現実) という仕組みを利用しており、詳しい周辺の街並み情報やお店の情報が得られます。



特長 2 位置情報から
最適なルートを表示

GPS 付き地図があるので、初めての場所でも迷うことなく移動が可能。行きたいスポットを検索すれば、現在地から目的地までのおすすめルートがすぐに検索できます。スマートフォン片手に街歩きをお楽しみください。



図 2-11 京都まちあるき観光 Navi の操作イメージ



図 2-12 広報施策とダウンロード数 (iOS)

Google play 検索

ショップ マイブック マイ動画

京都まちあるき観光 Navi DO YOU KYOTO?

京都まちあるき観光 Navi (2) ￥99 で購入

端末をお持ちでないようです。

他にチェックされているアプリ

いつもNAVI [ドライブ] ￥7,500 (164)

iタウンページ全国... 無料 (1,028)

ことりっふ 無料 (110)

市バスどす

概要 ユーザーレビュー 更新情報 アクセス許可

ユーザーレビュー レビューを書く

5つ星 1

4つ星 1

3つ星 0

2つ星 0

1つ星 0

評価の平均 4.5

すべてのバージョン 表示順 役立ち度

卓延小山 - 2013/01/22 - Dell Blaze, バージョン 1.0.0

★★★★ 観光+エコって面白い！

何度も行きたくなる京都の環境保護に役立ちながら、おまけに観光ナビアプリ
を使えるのは嬉しい。このアプリって他の地域でもたぶん...使われてるものと
同じで安定して動きますね。コンテンツも充実してる印象です。

👉 📧 スпам報告

図 2-13 アプリの評価

表 2-13 今の京都の花情報配信アプリ「花なびセレクト」の概要

項目	内容
名称	今の京都の花情報配信アプリ「花なびセレクト」
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都の満開花について最新情報を取得可能 ○ 自分のいる場所から各情報場所までの経路を検索することが可能 ○ 京都各地のイベント情報や歳時を取得可能
対応デバイス・価格	iOS: App store 350円/月
オフセットの内容	京都フラワーツリズム推進協議会が、同協議会の「花なびセレクト」購入者の排出するCO ₂ の一部(3.5kg-CO ₂)を、DO YOU KYOTO?クレジットによりカーボ ?クレジットによりカーボン・オフセット
導入数	iOS: 25件 ※2月28日時点の実績。



花なびセレクト



表 2-14 舞妓さんの写真配信アプリ「舞妓なび」の概要

項目	内容
名称	舞妓さんの写真配信アプリ「舞妓なび」
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月30点の舞妓さんの写真が更新 ○ 舞妓さんからのメッセージが届く ○ 現在地から撮影場所までの経路案内の機能
対応デバイス・価格	iOS: App store 350円/月
オフセットの内容	京都フラワーツリズム推進協議会が、同の「舞妓なび」購入者の排出するCO ₂ の一部(3.5kg-CO ₂)を、DO YOU KYOTO?クレジットによりカーボン・オフセット
導入数	iOS: 26件 ※2月28日時点の実績。



舞妓なび

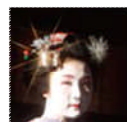


図 2-15 舞妓さんの写真配信アプリ「舞妓なび」のイメージ

**カーボン・オフセット付き
旅行商品**
(近畿日本ツーリスト㈱)

DO YOU KYOTO? クレジット◇～京の冬の旅「食遊菜都」2013 Webプラン～◇の旅行商品をカーボン・オフセット付きにて提供

- 提供プラン
 - ・京料理と舞妓のタベ
 - ・舞妓と楽しいひと時を～からげの舞妓さんと楽しむ京のおばんざいランチ～
 - ・嵐峡の屋形船と京料理
- 提供期間：平成24年11月19日～平成25年3月22日
- 6.0 kg-CO₂のオフセット付き



図 2-16 近畿日本ツーリストのオフセット付京都旅行の概要

(4) スポーツイベントでのカーボン・オフセット

京都サンガ F.C.による全ホームゲームをカーボン・オフセット

京都サンガ F.C.が、DO YOU KYOTO?クレジットにより、5月26日(日)および8月19日(日)以降の2012シーズンの全ホームゲーム(計8試合)を、地球にやさしいカーボン・オフセットで開催した。

カーボン・オフセットするのは、会場の電気使用に伴うCO₂排出量や会場から出るごみの焼却に伴うCO₂排出量などで、全部で31.1トンになった。

活用されたクレジットは、京都サンガ F.C.を応援するサポーターも含まれ、地域のサッカーチームの環境活動を、サポーターが支えるという新たな実績を創出できた。

なお、京都サンガ F.C.のカーボン・オフセットマッチの啓発活動として、第1試合目にカーボン・オフセット記念セレモニーを開催し、また、対象の全試合で概ね全観客(1試合平均8,900人)にDO YOU KYOTO?クレジット制度及びカーボン・オフセット周知リーフレットを配布し、看板の設置とともに、ハーフタイム等には、場内アナウンス及び電光掲示板での啓発を実施した。

京都サンガ F.C.は、日ごろの環境活動に加え、カーボン・オフセットマッチ開催により、会社と選手とファンが一丸となって取り組んでいる他に類を見ない大きな普及啓発効果が認められ、第10回京都環境賞特別賞※(企業活動賞)を受賞した。

その他、平成25年3月10日実施の京都マラソンもカーボン・オフセットで実施する。



図 2-17 京都サンガ F.C.カーボン・オフセット記念セレモニー

※ 京都環境賞は、京都市が、地球温暖化の防止や循環型社会の形成をはじめ、環境の保全を目的とした市民や事業者の皆様の自主的な実践活動を更に推進するため、先進的な活動等に取り組んでおられる方を表彰するもの。「京都環境賞選考委員会」での選考を経て、京都環境賞、特別賞及び奨励賞の受賞者を決定する。

(5) その他のカーボン・オフセット

地元金融機関へのカーボン・オフセットの以下の提案を実施した。金融機関においては今後のクレジット活用について、引き続き検討中である。



図 2-18 金融機関向けの主なカーボン・オフセットの提案 (抜粋)

2.5.3 DO YOU KYOTO?クレジット制度の PR、普及啓発

(1) イベント等への参加

制度の PR、普及啓発を目的に以下のイベントに参加し、パネル展示およびパンフレットの配布を行った。

表 2-15 参加イベント一覧

名称	場所	時期	展示物、配布物
おいけフェスタ	京都	2012年10月13日、14日	ブース出展
エコプロダクツ2012	東京	2012年12月13日～15日	パネル展示、パンフレット配布
新春グリーン購入交流会	京都	2013年1月25日	「マイヒットエコ商品・サービス自慢大会」に「京都まちあるき観光 Navi」を出品
関西広域カーボン・クレジット推進フォーラム	大阪	2013年1月30日	ポスター掲出、パンフレット配布
京あるき in 東京 2013	東京	2013年2月4日～20日	パンフレット配布
カーボン・マーケット EXPO 2013	東京	2013年2月6日	パネル展示、パンフレット配布
第2回「環境未来都市」構想推進国際フォーラム	北海道	2013年2月16日	パンフレット配布
京都マラソンイベント	京都	2013年3月8日、9日	ブース出展等(予定)



エコプロダクツ 2012 (資料の配架)



カーボン・マーケット EXPO 2013 (ブース展示)

図 2-8 主要な参加イベントでの PR 状況

(2) 認知度の調査

京都におけるカーボン・オフセットの認知度を調査するために株式会社京都パープルサンガの協力を得て、サッカーの試合会場でアンケート調査を行った。アンケートの回収率を重視し、属性分析等に関する設問は設置せずにシンプルなアンケートを実施した。

- ・ アンケートを集計した結果、コアなファンが多く集まったと考えられる第一回のアンケートでは認知度が高く、シーズン最終戦で相対的にコアなファンが少なかったと考えられる第二回アンケートでは第一回アンケートに比べて認知度が低かった。
- ・ 認知度が低かった第二回アンケートにおいても 3 割以上の観客がカーボン・オフセットの意味を知っており、まったく知らない層の割合が約 4 割とグリーン・マーケット+ (プラス) 研究会の一般消費者調査の結果¹と整合しているものと考えられる。
- ・ また、今後の取り組みの継続については前向きな回答が 9 割以上を占め、カーボン・オフセットの推進に期待が寄せられていることが示された。
- ・ 消費者のカーボン・オフセットに対する印象は好意的であるものの、認知度のほうが好意的な印象を持つ割合より低いことから、今後更なる告知広報を行うことで、オフセット実施者のブランディング効果の向上やマーケティング効果の向上が図られるものと考えられる。

表 2-16 アンケート概要


項目	内容
調査対象	京都サンガ F.C.のサッカーの観客
調査方法	サッカーの試合における留置調査法 (試合パンフレットにアンケート調査票を挟み込み、 回答者には先着でノベルティをプレゼントした)
調査時期	第一回:2012年9月23日 第二回:2012年11月11日(ホームゲーム最終戦)
回答数	第一回:295 第二回:100

¹ 平成 23 年 8 月 グリーン・マーケット+ (プラス) 研究会 市場の更なるグリーン化に向けて

アンケートにご協力いただいた方に、

サンガ ステッカーを プレゼント!

(先着 200名様)送付



カーボン・オフセットに関するアンケート

カーボン・オフセットとは、自社の温室効果ガス削減と、クレジット取引を通じて削減できなかった温室効果ガスの削減を別のところで実施することによって達成することです。

あなたは、カーボン・オフセットの取組を知っていましたか？

知っていました 聞いたことあるが、内容は知らない 聞いたことあるが、内容は知らない

あなたは、カーボン・オフセットの取組を知っていましたか？

はい いいえ

あなたは、カーボン・オフセットに関する取組を知っているか？

知っていました 聞いたことあるが、内容は知らない 聞いたことあるが、内容は知らない

あなたは、カーボン・オフセットの取組を知っていましたか？

知っている 聞いたことあるが、内容は知らない 聞いたことあるが、内容は知らない

このアンケートは、フレンズスクエア内輪廻ブースで実施しています。

11/11 (日) 11:00~12:00

※参加費は無料です。

図 2-20 アンケート調査票

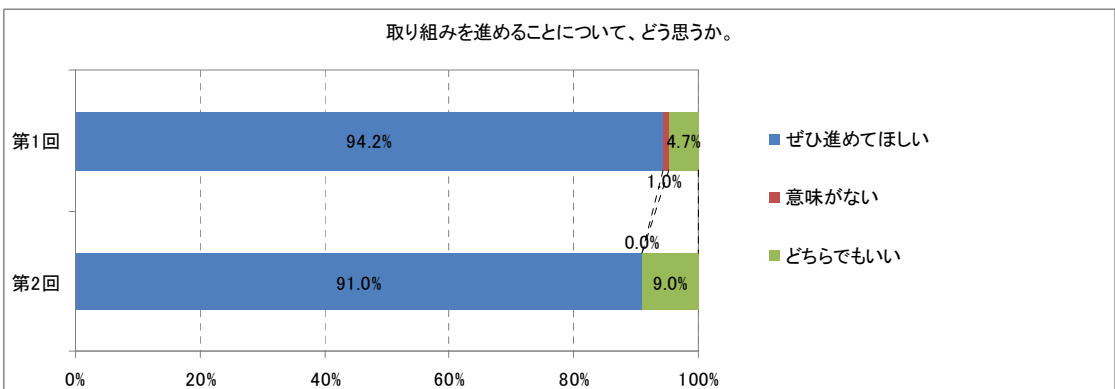
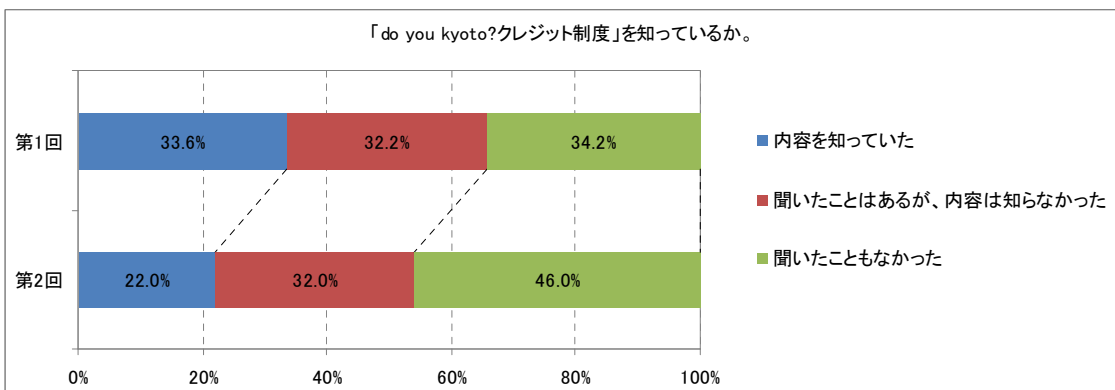
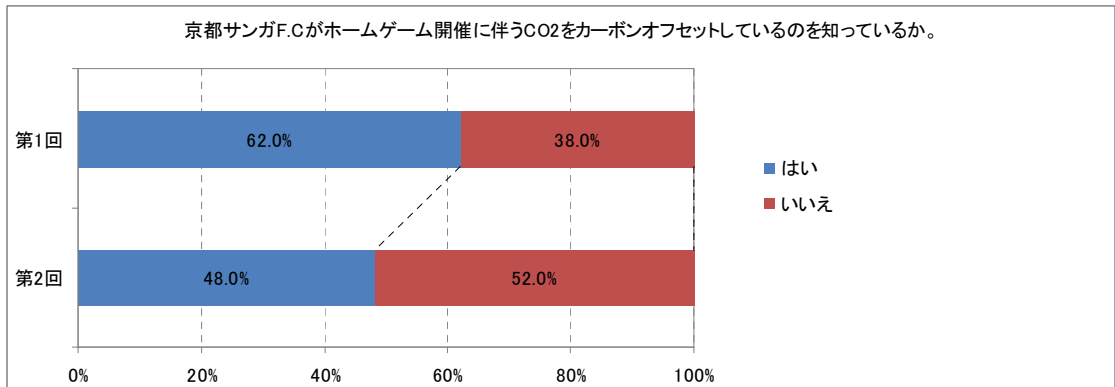
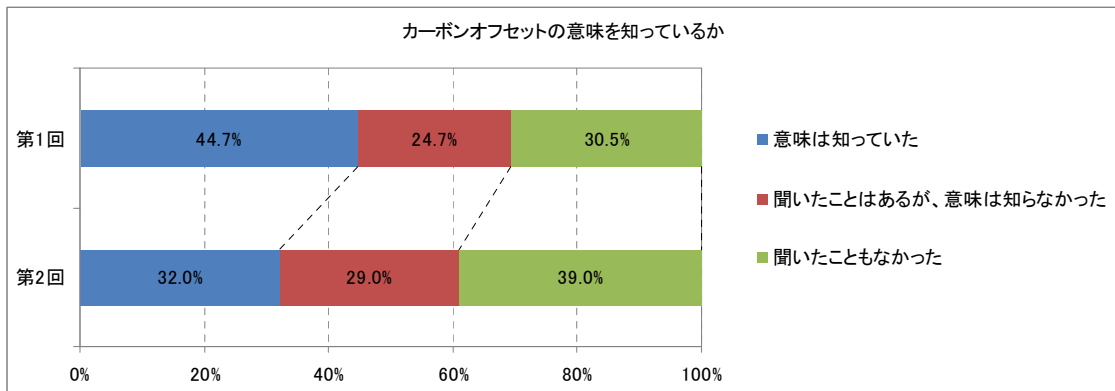


図 2-21 アンケート分析結果

(3) 教育ツールの作成

小学生等の環境教育の一環でカーボン・オフセットの認知を進めることを目的に、楽しくかつ手軽にカーボン・オフセットが学べるボードゲームを作成した。

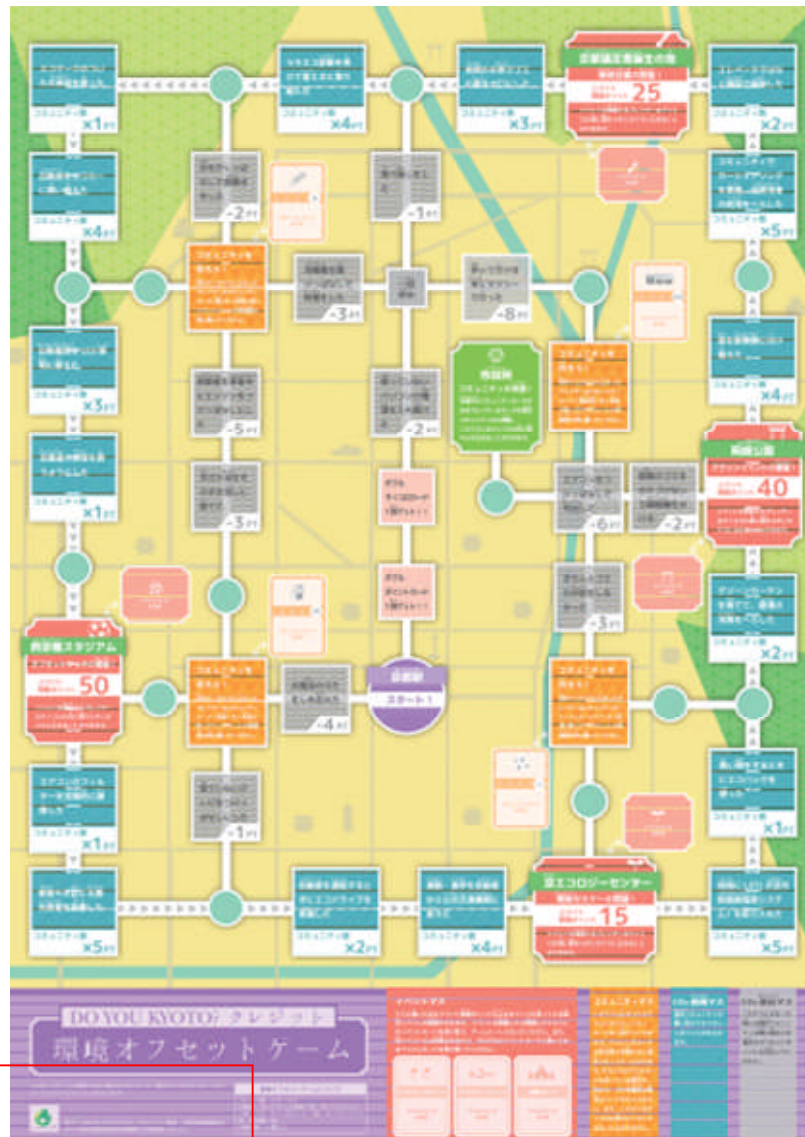
このボードゲームは、京都市が、市民団体の協力を得て、全市立小学校（約 170 校）の概ね 4 年生を対象に実施している環境教育等において活用していく。

ボードゲームはポイントを集めるすごろくをベースとしており、オフセットの基本的な仕組みを学びながら、環境ポイントを集めて市場メカニズムに触れることができる。小学生向けのゲームであることから、漢字にはルビを振るなど工夫を施した。概要を以下に示す。

なお、このゲームの作成に伴う CO₂ 排出も DO YOU KYOTO? クレジットでカーボン・オフセットしている

表 2-17 ボードゲーム概要

項目	内容
名称	DO YOU KYOTO?クレジット 環境オフセットゲーム
対象年齢	小学校低学年
目的	(1)「DO YOU KYOTO?クレジット」の基本的な仕組みの理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ クレジット(創出・活用)の基本的なシステムを学習。 ・ コミュニティでどのような取組が行われているかを知る。 ・ 創出したクレジットがイベントや企業で有効活用されることを知る。 (2)「DO YOU KYOTO?クレジット」の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状として、コミュニティが増えづらいという点を踏まえ、ゲームを通してコミュニティを増やすことのメリットを体験する。 ・ 個人だけではなく、京都市として大きな視点を持ち地産地消・地域活性化の意識を養う。
ゲームの手法	<ul style="list-style-type: none"> ・ すごろくを使い、クレジットの創出および活用を体験。 ・ イベントやマスの内容は現実に近いものを目指す。 ・ コミュニティの設立を勝敗の鍵とし、現実に即した状況を再現。 このことにより、ゲーム内でもコミュニティの設立はハードルを設けるが結果コミュニティの設立が有利に働くようにする。
ルール	(1)勝敗の条件 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4 人 1 組でプレイをし、ゲーム内で 4 つのクレジット活用イベントを開催。すべてのイベントを達成した順番が順位になる。 (2)ゲームの進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 順番にサイコロを振り、出た目の分を進む。止まったマスに書いてある指示、イベントに従う。 (3)イベントの開催方法およびクレジットの創出。 <ul style="list-style-type: none"> ・ CO₂ 削減マスに止まった場合マスの内容によって削減した分のポイントをもらえる。 ・ CO₂ の削減量はマスの内容に持っているコミュニティの数をかけた値となる。
作成数	500 セット
配布先	小学生向けの環境学習や、イベント等での活用を予定



このボードゲームの製作に伴い排出されるCO₂の一部はDO YOU KYOTO?クレジットによりオフセットされています。

本ゲームはDO YOU KYOTO?クレジット創出・活用促進協議会とNPO 早稲田環境教育推進機構が共同開発しました。

図 2-22 環境オフセットゲーム（ボード）

2.6 マスコミからの取材の有無

本事業に関連する新聞掲載、取材の実績を下表に示す。4月の段階でクレジットの創出および利用について記事掲載されていることから、本協議会開始後のニュースの新規性が薄れてしまい取材等に発展させることが困難であったが、観光アプリのカーボン・オフセットなどについて平成24年12月末に取材を受けている。

表 2-18 取材実績一覧

媒体	取材を受けた日	取材を受けた者	取材場所	発刊日
京都新聞	平成 24 年 4 月 17 日	京都サンガ F.C. 京都市	京都サンガ F.C. 京都市	平成 24 年 4 月 17 日
毎日新聞	平成 24 年 5 月 18 日	京都市	京都市	平成 24 年 5 月 26 日
京都新聞	平成 24 年 5 月 26 日	京都市	京都市	平成 24 年 5 月 27 日
京都新聞	平成 24 年 12 月 26 日	京都市	京都市	平成 25 年 1 月 5 日

試合で発生2.7トン、市民から買い取り

サッカーJリーグ2部（J2）の京都サンガFCは、試合開催に伴う二酸化炭素（CO₂）排出量をゼロにする「カーボン・オフセットマッチ」を5月26日、京都市右京区の西京極陸上競技場で開催する。

サンガCO₂ゼロマッチ

4/15(水) 第97回

市民によるCO₂削減量を企業などが買い取る市の「DO YOU KYOTO」クレジット制度」を活用した初の試みで、電光掲示

来月、西京極

板の表示や選手のバス移動などで発生する排出量を削減分で埋め合わせる。

市は昨年度からこの制度を導入し、昨夏から半年間で九つの企業や住民団体が削減

したCO₂量160トンを1トンにつき1万円で買い取った。

市の試算では、観客動員1万人の1試合の排出量は、電光掲示ボードや場内放送など競技場内で0.3トンの選手バス移動0.04トンを来場した観客の電車移動1.8トンを合わせて出たこみの焼却0.5トンの約2.7トン。

サンガはこの分を、地域貢献を広くアピールしたいと、市も「市民の削減努力が役立つ（伏見区）が店舗のことが目に見えること照明のLED化で節電が、さらなる広がりとした1.4トンを、本つながる」と期待して掘地に近い西京極大門ハイッツ管理組合法人

（広中孝至）

京都市の制度活用 温暖化防止後押し

2

第16節

26日、西京極陸上競技場で1試合を行った。京都サンガFCは1-0で北九州に勝ち、今季初の5連勝で勝ち点を34に伸ばした。27日に試合のある勝ち点33の山形をかわし、暫定ながら、今季初めて首位に立った。

北九州戦は試合開催に

伴(二酸化炭素(CO₂)排出量を、伏見大手筋商店街振興組合(伏見区)などの削減分で相殺してゼロにする「カーボン・オフセットマッチ」として初めて行われた。

京都 1-0 北九州
ゴール前の局面で攻守ともに上回ったサンガが北九州を退けた。前半は攻守の切り替えが速く中盤を制圧。37分に相手クリアを敵陣でカットして

逆襲を仕掛けた。後半外から左足

5/27(日) 京都 朝刊



カーボン・オフセット V マッチ

エコでも V だ!



京都サンガ

CO₂ 排出分 地元から購入

きょう西京極

サッカーJ2・京都サンガFCが26日に西京極陸上競技場で行うホームゲーム「キラヴァンツ北九州戦」で試合で排出されるCO₂を埋め合わせる「カーボン・オフセットマッチ」に取り組み。地元のマンションなどが削減したCO₂を京都市が仲介してサンガが購入する仕組み。京都市のスポーツイベントでのカーボン・オフセットマッチは初めて。

【林哲平】
通常サンガの1試合、サンガが同価格で購入するCO₂排出量は、約0.5トン。排出が埋め合わせられたと見なす。試合は26日午後1時にキックオフ。サンガは15節を終えて10勝1分け4敗の2位と好調で「エコ活動のPR大使にもなっており、引

サッカーJ2・京都サンガFCが26日に西京極陸上競技場で行うホームゲーム「キラヴァンツ北九州戦」で試合で排出されるCO₂を埋め合わせる「カーボン・オフセットマッチ」に取り組み。地元のマンションなどが削減したCO₂を京都市が仲介してサンガが購入する仕組み。京都市のスポーツイベントでのカーボン・オフセットマッチは初めて。

【林哲平】
通常サンガの1試合、サンガが同価格で購入するCO₂排出量は、約0.5トン。排出が埋め合わせられたと見なす。試合は26日午後1時にキックオフ。サンガは15節を終えて10勝1分け4敗の2位と好調で「エコ活動のPR大使にもなっており、引

今回はサンガとの交際を続ける伏見大、取り組みを続けている手筋商店街(伏見区)のうちの店舗が参加し、目指してホームで確実空調抑制などで生み出されたクレジットの一。に勝ちたい」としてい

トマッチでは、建設、市民や企業が実際に削減したCO₂について京都市が1トン当たり1万4千分の奨励金を出した分(クレジット)を

クレジット奨励金
クレジット申請
クレジット購入
クレジット売却

京都サンガ
クレジット購入
クレジット売却

京都サンガ
クレジット申請
クレジット購入
クレジット売却

京都サンガ
クレジット申請
クレジット購入
クレジット売却

毎日 朝刊
5/26(土)

観光用アプリDL料の半額、排出権購入費に 京都市が開発

2013/01/05 09:39 本紙（京都新聞）

京都市は地球温暖化防止対策の一環として、観光情報の手入と、市内の二酸化炭素(CO2)の排出削減への協力が同時に出来るスマートフォンのアプリケーションを開発した。ダウンロード料金の半額が、市内で売買対象となっているCO2排出権の購入に充てられる仕組み。市は「地域にやさしいアプリ」として、今年8月まで運用する。



観光情報を手入しながら、CO2排出削減の取り組みに協力できるスマートフォンのアプリケーション

アプリは、市内で排出権購入の動きが強いため、広く観光客や市民に協力してもらおうと、大手旅行会社と昨年12月に開発した。

地図上に徒歩者に適したお勧めルートを表示したり、AR(拡張現実)の画面で目的地までの距離や進む方向を案内したり、移動した軌跡などを地図上に表示する機能がある。観光客らに99円でダウンロードしてもらい、50円分を排出権の購入費に充てる。

市は2011年8月、CO2排出削減に取り組む中小企業や自治会などを対象に、1トン削減すれば原則1万円を補助する排出量取引制度を始めた。排出権を市がいったん買い取り、大規模な削減が見込めない事業者やイベント実施者に売る仕組みで、買い取れば排出を形式上「ゼロ」にできる。

昨年末までに中小企業などから90件の削減取り組み報告があったが、排出権の購入者は少なく、これまでに40トン分が売れたものの、残りの50トン分は市が負担しているのが現状という。

市地球温暖化対策室は「アプリは多くの観光客や市民に楽しんでもらえ、それによって京都の環境が守られていく。企業などの排出権購入の促進にもなる。多くの方に購入してほしい」と期待している。

図 2-23 各媒体による記事

2.7 他都市からの行政調査の受け入れについて

DO YOU KYOTO? クレジット制度は、国が実施するクレジット制度では対象とされていないような小規模な省エネや家庭における省エネも対象としており、小規模ではあるものの地域発の環境価値を地域で消費する地産地消のCO₂クレジット制度である。

この点は、他の地方自治体で実施された場合（とりわけ、基礎自治体）でも、京都市の場合と同様に、省エネ促進、地球温暖化問題への市民等の意識向上や、地域で環境価値が循環し経済活動の低炭素化を促進する等の効果を発揮するものと考えられる。

また、本制度のスキームや手続きは、家庭でも取り組みやすいよう簡潔な制度として構築されており、京都市でなければ運用できない条件もなく水平展開が可能である。

こうした本制度の特性から、本協議会が、本事業に取り組み、制度運用・PR を実施する中で、中小企業や家庭での省エネ促進のインセンティブ付与ツール、環境価値の地域循環ツール構築のための参考事例として行政視察の申し入れが数件あった。

表 2-19 京都市が受け入れた行政調査

受入月日	都市名	調査内容
8月17日来庁 以降、随時、電話調査	堺市	DO YOU KYOTO?クレジット 制度全般
8月17日来庁	宮古島市(カーボンフリーコ ンサルティング(株))	DO YOU KYOTO?クレジット の活用促進
2月4日来庁	神戸市	DO YOU KYOTO?クレジット 制度全般
2月27日来庁	大分県	DO YOU KYOTO?クレジット 制度全般

3. 事業の総括

2章で示した事業実施内容を下表にとりまとめる。

表 3-1 事業実施結果

視 点	結 果 ・ 内 容			
(1)モデル事業の成果				
①目標設定と達成度	事業の目標と達成状況			
	設定目標及び狙い	目標等	達成状況	備考(前年度)
	削減効果	年間 1,000 t-CO ₂	年間 606.6 t-CO ₂ (見込)	年間 159.6 t-CO ₂
	地域活力の創出	●中小事業者、コミュニティの節電・省エネ支援 ●カーボン・オフセットマッチ開催による市内スポーツの振興	●中小事業者、コミュニティへの奨励金額 482万円 ●京都サンガ F.C.のカーボン・オフセットマッチ今季開催数 9ゲーム※	●同左 123.4万円 ●同左 0ゲーム
	市民力の向上	コミュニティプロジェクト実施による絆の強化	コミュニティプロジェクト実施世帯数 261世帯	同左 105世帯
	産業振興	●観光振興 ●オフセット商品開発等による京都地場産業の活性化 ●民間省エネサービスの推進 ●環境先進都市京都の都市格の高さの発信	●観光に関わるオフセット企画 4企画実施 ●地場産業の活性化に資するオフセット付き商品の企画数 4企画実施 ●低炭素化支援パートナー事業者の登録者数 14社 ●本事業をPRするためのイベント参加数 8イベント	●同左 0企画 ●同左 0企画 ●同左 11社 ●同左 0イベント
※ 京都サンガ F.C.は日ごろの環境活動に加え、カーボン・オフセットマッチ開催により、会社と選手とファンが一丸となって取り組んでいる他に類を見ない大きな普及啓発効果が認められ、第 10 回京都環境賞特別賞(企業活動賞)を受賞した。				

②温室効果ガスの削減効果	温室効果ガス削減量 年間 606.6 t-CO ₂ (見込) 内訳 ●中小事業者プロジェクト 452.5 t-CO ₂ (見込) ●コミュニティプロジェクト 154.0 t-CO ₂ (見込)
③消費電力及び消費電力量の削減効果	140.9 万 kWh (温室効果ガス削減量(対象:電気、ガス、重油、灯油)を電力量に換算。換算に使用した電気の排出係数 0.4305 kg-CO ₂ /kWh)
④採択金額に対する費用対効果	約 3 万円/t-CO ₂ =1,881 万円/606.6 t-CO ₂ (見込)
⑤運営コスト	● クレジット創出について、省エネによるCO ₂ 削減効果認証を、検針票の電気・ガス等使用量(実績)ベースに、専門的第三者機関へ委託せず、行政で実施することで、クレジット認証の正確性・信頼性を担保しつつ、委託費用をカットしている。(省エネの実地検証も行政で実施。) ● DO YOU KYOTO?クレジット制度は、行政の制度周知、創出者の省エネ・資金調達・申請書類等作成に、無償で協力する事業者を低炭素化支援パートナーとして登録する制度を包含した制度として構築している。
(2)モデル事業の評価	
①先進性・独自性	● 京都市のCO ₂ 排出状況は民生部門からの排出が全体の56.8%を占める。このため、国が実施するクレジット制度では対象とされていないような家庭・商店街における省エネも対象としている。平成24年度はこれらのクレジット創出活動件数が前年度より増加(認証4団体(平成23年度)⇒認証10団体(平成24年度))して進められた。 ● 基礎自治体である点を生かした、クレジット創出者と活用者の互いの顔が見え、環境価値の循環を通して互いが支え合う、地産地消のCO ₂ クレジット制度である点の特徴である。平成24度は、京都サンガF.C.のカーボン・オフセットマッチをはじめ数々の実績(11企画)を積みことができ、地域で創出から活用までを行う環境価値の循環が実現した。 ● 京都議定書誕生の地における、数々のカーボン・オフセット時の周知活動や、イベントでのPR活動により、制度周知はもとより、環境保全活動の重要性を啓蒙することができた。
②幅広い対象者の設定	●クレジット創出対象者は上記のとおり、基礎自治体である点を生かし中小事業者から商店街、家庭までを対象として、平成24年度は、前年度より参加者を大幅に増加(認証9団体(平成23年度)⇒認証32団体(平成24年度))して省エネが進められた。 ●クレジット活用においては、市内のイベント実施者によるカーボン・オフセットが実施された。さらに、観光産業が盛んである特性を生かし、市外からの観光客にも対象を広げ、カーボン・オフセットを実施した。
③取り組みやすさ	● クレジット創出について、省エネによるCO ₂ 削減効果認証を、検針票の電気・ガス等使用量(実績)ベースに、専門的第三者機関へ委託せず、行政で実施することで、クレジット認証の正確性・信頼性を担保しつつ、認証手続きの煩雑さを省いた。 ● さらに、検針票保存や収集等の手間を省くため、ICT活用の研究を行い、実現可能性のある手法を見出すことができた。

④対象者からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ● クレジットの創出について、平成 24 年度は、前年度より参加者を大幅に増加(認証 9 団体(平成 23 年度)⇒認証 32 団体(平成 24 年度))して省エネが進められた。 ● クレジットの活用について、京都サンガ F.C.のカーボン・オフセットマッチ 8 試合において、概ね全観客(1試合平均 8,900 人)に制度及びカーボン・オフセット周知リーフレットを配布する PR 活動を実施した。その結果、本事業の一環として実施したアンケート調査では、リピーターは、試合でのカーボン・オフセット実施について<u>高い認知度(62%)</u>があることが判明した。 また、数々のカーボン・オフセット実施やイベント参加による周知活動により、京都市の直接の営業活動によらない、自発的なクレジット購入希望者が出てきた。
⑤課題・問題点等	<ul style="list-style-type: none"> ● クレジット創出について、創出者及び行政において、大きな手間が生じており制度参加への障壁となっているため、ICT 活用の早期実現が必要である。 ● クレジット活用について、平成 24 年度は、数々の実績を積むことができた。今後は、クレジット創出から活用までが広く共感できる美しいストーリーで結ばれた付加価値をもった仕組みを構築し、継続的にクレジットが活用される環境整備が必要である。 ● クレジット活用について、京都市より広範囲に事業展開している事業者においては特定の地域のクレジットのみを用いてオフセットすることに対して理由付けが困難なケースも考えられることから、他の地域のクレジットとバスケットでオフセットできるような仕組みが今後求められると考えられる。このためには各制度をまたいだ共通の管理簿(広域レジストリ)の整備が必要になる。

4. 今後の展望

今後の展望を継続可能性、他事業との連携可能性、波及可能性の観点から以下に示す。

① 継続可能性

平成 22 年から制度の検討を開始し、平成 23 年 8 月に制度の運用が始まり、制度運用・継続が、京都市基本計画の実実施計画（平成 24～27 年度）や京都市地球温暖化対策計画（平成 23～32 年度）において具体的に位置づけられている。このため、今後も同制度の継続可能性が担保されている。

また、平成 24 年度に取り組んだ各事業は、下記のとおり、進めていく。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
クレジットの創出 ◆手引きを活用した創出促進 ◆ICT 活用	実施（諸情勢に応じて手引きの見直し）		
	中間案実施準備	○中間案の実施（家庭・商店） ○最大活用案の実施研究・準備	
クレジットの活用 ◆観光オフセット（修学旅行・MICE） ◆オフセット付電気自動車充電の販売 ◆スポーツイベントのカーボン・オフセット ◆DO YOU KYOTO?デー（毎月 16 日）にける事業者のカーボン・フリー活動の推進 ◆事業者の CSR 報告書等のオフセット作成 ◆その他のオフセット研究	研究・準備	○実施	
	研究・準備	○実施	
	○京都サンガ F.C.のカーボン・オフセット実施 ○京都マラソンのカーボン・オフセット実施		
	研究・準備	○実施	
	研究・準備	○実施	
◆その他のオフセット研究	京都三大祭り等での研究・準備	京都三大祭り等での実施	
制度 PR ◆イベントでの PR ◆環境オフセットゲーム	実施		
	環境教育での活用		

② 他事業との連携可能性

「他都市からの行政調査の受け入れについて」でも触れたように、数都市において DO YOU KYOTO? クレジット制度が研究されている。とりわけ堺市、神戸市は関西圏の政令指定都市であるため、同種の制度を運用し、事例や実績を持ち寄り、切磋琢磨することで制度の質を高め、関西の他の都市へ水平展開し、連携して、広域に活動していける可能性がある。

また、「ICT 活用研究」でも触れたように、ICT 活用時には、奨励金を現金払いからポイント付与制度へ移行するなどの工夫が必要であるが、この場合、環境省のエコアクションポイント事業との連携可能性もある。

③ 波及可能性

クレジット創出については、ICT を活用することにより、1 世帯単位での取組の展開とインターネット利用世帯の省エネ参加を開拓する。これに伴い ICT 活用の場合には、奨励金を現金払いからポイント付与制度へ移行するなどの検討も行う。一方で、インターネットを利用しない世代の省エネも引き続き促進する観点から、現行の紙ベースの運用も継続する。

クレジット活用については、付加価値を有する環境価値を形成するため、京都の最大の魅力である伝統文化と観光・環境との融合を検討する。こうしたことにより、市内はもとより、環境先進都市、歴史都市、文化都市である京都に魅力を感じる市外の方のクレジット活用を促し、環境価値循環の輪を広げていきたい。

参考資料

参考資料 1 第一回総会議事概要

参考資料 2 第二回総会議事概要

参考資料 3 第三回総会資料

参考資料 4 広報ツール（「表 2-4 広報ツール一覧」に掲載のツール）